



骨粗鬆症を中心とする

骨吸収抑制薬投与に関する医科歯科連携のしおり

-千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会編-

- (1) 医療連携の手引き
- (2) 医療連携書
- (3) 医科歯科連携のための用語集

問合せ：

千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会

東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学講座

東京歯科大学市川総合病院骨粗鬆症リエゾンサービスチーム

# 骨粗鬆症を中心とする 骨吸収抑制薬投与に関する医科歯科連携の手引き -千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会編-



## 1. 医科歯科連携の概要

この「骨粗鬆症を中心とする骨吸収抑制薬投与に関する医科歯科連携の手引き」は骨吸収抑制薬を処方する医師、骨吸収抑制薬を投与されている患者さんを診察している歯科医師の先生方のための医科歯科連携マニュアルです。骨粗鬆症以外の疾患にも使用できる様作成してあります。

## 2. 整形外科・骨吸収抑制薬処方医の先生方へ

骨吸収抑制薬の有害事象の1つである、骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（Anti-resorptive agent-related Osteonecrosis of the Jaw：ARONJ）の発症率は0.1%とされています（広島県呉市行政レセプトデータより）。患者さんの不利益にならないよう、処方開始前・薬剤変更の際には歯科医院へご連絡頂けると幸いです。

## 3. 歯科医師の先生方へ

骨粗鬆症治療において歯科医師の介入は骨吸収抑制薬の治療を安心・安全に継続させることに寄与すると言われています。また、顎骨の異常は骨粗鬆症のサインの1つと言われ、積極的な医科歯科連携は患者さんに多くの利益となります。簡単な書式になっていますので、まずはこの手引きに沿って医科歯科連携を開始して頂けると幸いです。

### 診療報酬

様式1-1：整形外科・骨吸収抑制薬処方医の先生から歯科医院へ	250+(*100)点
様式1-2：歯科医院の先生からの返答	0点
様式2-1：歯科医院の先生から骨粗鬆症が疑われる場合 歯科医院の先生から骨粗鬆症治療中断症例が見つかった場合	250点
様式2-2：整形外科の先生からの返答（歯科治療・口腔ケア依頼）	250+(*100)点
様式3-1：歯科医院の先生から照会（観血処置に対する休薬/変更の相談）	120点
様式3-2：整形外科の先生からの返答（照会に対する返答）	120点
様式4-1：歯科医院の先生からの観血処置後の治療依頼	250点
様式4-2：整形外科の先生からの返答（観血処置後の治療依頼に対する返答）	0点

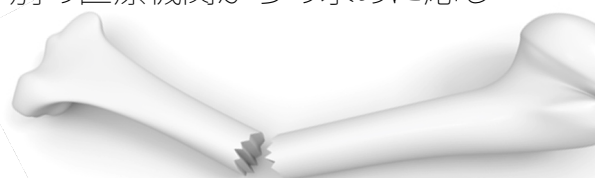
250点：診療情報提供料（1）

100点：歯科医療機関連携加算 医科医療機関の医師が歯科医療機関に紹介した場合  
\*人工関節置換等の周術期に限る（悪性腫瘍関連は別フォーマット）

120点：診療情報連携共有料（3カ月に1回） 歯科診療を担う別の医療機関からの求めに応じ  
検査結果、投薬内容等を文書により提供した場合

問合せ：

千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会  
東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学講座  
東京歯科大学市川総合病院骨粗鬆症リエゾンサービスチーム



情報提供書(Ⅰ)  
骨粗鬆症連携 [医科→歯科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 ( 歳) 職業

傷病名

- 骨粗鬆症 ( 手術あり 年 月 日 ) 関節リウマチ 自己免疫疾患 ( )  
がん骨転移 ( 癌種: ) その他 ( )

紹介目的

- 上記診断のため下記の薬剤を {  処方する予定です。  
 年 月より投与しております。 }

顎骨壊死リスクあり

BP経口製剤 BP注射製剤

顎骨壊死リスクなし

ビタミン製剤 SERM ホルモン製剤抗RANKL製剤 抗スクレロスチン製剤Ca製剤 PTH製剤

つきましては顎骨壊死予防のため顎口腔領域についてご評価いただき、口腔ケアならびに必要なに応じて歯科治療をお願いいたします。

骨吸収抑制薬投与に猶予があります。

本薬投与の開始を遅らせた方がよい場合または休薬が必要な場合は、その時期・期間等についてご相談ください。

骨吸収抑制薬投与が早急に必要・休薬不可です。

原疾患の進行状態から本薬投与を優先させたいと思いますのでご配慮お願い致します。

既往歴及び家族歴

脆弱性骨折(部位: ) 糖尿病 間質性肺炎 その他 ( )ステロイド使用 ( あり (現在: mg) 使用歴あり なし )

症状・治療経過および検査結果

現在の処方

BP経口: ダイドロネル・フォサマック・ボナロン・アレンドロン酸・ベネット・アクトネル  
リセドロロン酸Na・リカルボン・ボノテオ・ミノドロロン酸・ボンビバBP注射製剤: パミドロロン酸Na・ボナロン・ゾメタ・リクラスト・ゾレドロロン酸・ボンビバ静注抗RANKL製剤: ランマーク・プラリア抗スクレロスチン抗体製剤: イベニティ

情報提供書( I )に対する返書  
骨粗鬆症連携書 (返信) [歯科→医科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 ( 歳) 職業

傷病名

- 歯周病     根尖性歯周炎 (歯の根の治療)     義歯 (入れ歯) 治療  
 う蝕 (虫歯) 治療     補綴治療 (被せ物)

治療経過

- 歯科疾患の治療開始前です。  
 歯科疾患の治療中です。  
 歯科疾患の治療は終了し、口腔管理・口腔ケア継続中です。

骨吸収抑制薬を使用される患者様に対し、ARONJ(骨吸収抑制薬関連顎骨壊死)予防のために口腔管理・口腔ケアが大切であることをご指導いただきますとともに、薬剤変更などがございましたら、当院にご一報いただければ幸いです。

既往歴及び家族歴

症状および検査結果

現在の処方

備考

情報提供書(Ⅰ)  
骨粗鬆症連携 [歯科→医科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 ( 歳) 職業

傷病名

歯科傷病名

- 
- 歯周病
- 
- 根尖性歯周炎 (歯の根の治療)
- 
- 義歯 (入れ歯) 治療
- 
- 
- う蝕 (虫歯) 治療
- 
- 補綴治療 (被せ物)
- 
- その他 ( )

医科傷病名

- 
- 骨粗鬆症疑い
- 
- 骨粗鬆症
- 
- 関節リウマチ
- 
- 自己免疫疾患 ( )
- 
- 
- がん骨転移 (癌種: )
- 
- その他 ( )

紹介目的

- 
- 当院歯科パノラマX線写真における下顎骨形態の評価において骨粗鬆症が疑われました。つきましては起因での精査および加療をお願いしたくご紹介させていただきました。
- 
- 
- 過去に上記のごとく診断を受けていたとのことですが、加療が中断されているようです。つきましては精査および加療再開をお願いしたくご紹介させていただきました。また、骨吸収抑制薬投与歴につきましてもご教示頂けますと幸いです。

骨吸収抑制薬を使用される場合は、ARONJ(骨吸収抑制薬関連顎骨壊死)予防のために口腔管理・口腔ケアが大切であることをご指導いただきますとともに、その投与に際しては、当院にご一報いただければ幸いです。

既往歴及び家族歴

症状・治療経過および検査結果

- 
- 歯科疾患の治療開始前です。
- 
- 
- 歯科疾患の治療中です。
- 
- 
- 歯科疾患の治療は終了し、口腔管理・口腔ケア継続中です。

現在の処方

情報提供書(Ⅰ)  
骨粗鬆症連携(返書)[医科→歯科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男・女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 ( 歳) 職業

傷病名

- 
- 骨粗鬆症
- 
- 関節リウマチ
- 
- 自己免疫疾患 ( )
- 
- 
- がん骨転移(癌種: )
- 
- その他 ( )

紹介目的

ご紹介頂きました患者さんですが、  
上記診断のため下記の薬剤を

- 
- 処方する予定です。
- 
- 
- 年 月より投与しております。

顎骨壊死リスクあり

- 
- BP経口製剤
- 
- BP注射製剤
- 
- 
- 抗RANKL製剤
- 
- 抗スクレロスチン製剤

顎骨壊死リスクなし

- 
- ビタミン製剤
- 
- SERM
- 
- ホルモン製剤
- 
- 
- Ca製剤
- 
- PTH製剤

骨吸収抑制薬投与に猶予があります。

本薬投与の開始を遅らせた方が良い場合または休薬が必要な場合は、その時期・期間等についてご相談ください。

骨吸収抑制薬投与が早急に必要・休薬不可です。

原疾患の進行状態から本薬投与を優先させたいと思いますのでご配慮お願い致します。

既往歴及び家族歴

- 
- 脆弱性骨折(部位: )
- 
- 糖尿病
- 
- 間質性肺炎
- 
- その他 ( )
- 
- ステロイド使用 (
- 
- あり(現在: mg)
- 
- 使用歴あり
- 
- なし )

症状・治療経過および検査結果

検査結果 (YAM値 % 年 月 日計測)

骨吸収抑制薬投与歴 ( なし あり: 薬剤名 / 年 月より開始)

現在の処方

- 
- BP経口: ダイドロネル・フォサマック・ボナロン・アレンドロン酸・ベネット・アクトネル
- 
- リセドロン酸Na・リカルボン・ボノテオ・ミノドロロン酸・ボンビバ
- 
- 
- BP注射製剤: パミドロロン酸Na・ボナロン・ゾメタ・リクラスト・ゾレドロロン酸・ボンビバ静注
- 
- 
- 抗RANKL製剤: ランマーク・プラリア
- 
- 
- 抗スクレロスチン抗体製剤: イベニティ

診療情報連携共有  
骨粗鬆症連携（観血処置）〔歯科→医科〕

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日（ 歳） 職業

傷病名

歯科傷病名

- 
- 歯周病
- 
- 根尖性歯周炎（歯の根の治療）
- 
- 義歯（入れ歯）治療
- 
- 
- う蝕（虫歯）治療
- 
- 補綴治療（被せ物）
- 
- その他（ ）

医科傷病名

- 
- 骨粗鬆症疑い
- 
- 骨粗鬆症
- 
- 関節リウマチ
- 
- 自己免疫疾患（ ）
- 
- 
- がん骨転移（癌種： ）
- 
- その他（ ）

紹介目的

治療に際し、顎骨露出をともなう観血処置（抜歯・デンタルインプラント埋入など）を計画しております。

つきましては、骨吸収抑制薬の投与経過についてご教示ください。必要があれば休薬、薬剤変更などのご相談させて頂けますと幸いです。

 歯性感染症・疼痛があり、治療可能であれば早急に歯科治療を行う必要があります。 治療計画中であり、時間に余裕があります。

既往歴及び家族歴

症状・治療経過および検査結果

現在の処方

# 診療情報連携共有

## 骨粗鬆症連携（観血処置返書） [医科→歯科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日（ 歳） 職業

傷病名

- 骨粗鬆症疑い 骨粗鬆症 関節リウマチ 自己免疫疾患（ ）  
がん骨転移（癌種： ） その他（ ）

紹介目的

ご連絡ありがとうございます。現在, 下記薬剤を投与中です。

顎骨壊死リスクあり

顎骨壊死リスクなし

- BP経口製剤 BP注射製剤 ビタミン製剤 SERM ホルモン製剤  
抗RANKL製剤 抗スクレロスチン製剤 Ca製剤 PTH製剤

脆弱性骨折のリスクが高く休薬は困難です。休薬・薬剤変更が可能なので（休薬[ 月間]・薬剤変更）を指示しました。  
（最終投与： 年 月 日）顎骨壊死のリスクとなる薬剤投与はありませんので, 治療を進めて頂いて構いません。顎骨壊死のリスクとなる薬剤投与歴はありますが終了しています。  
（最終投与： 年 月 日）

既往歴及び家族歴

- 脆弱性骨折(部位： ) 糖尿病 間質性肺炎 その他（ ）  
ステロイド使用（ あり（現在： mg） 使用歴あり なし ）

症状・治療経過および検査結果

BMA投与歴：

現在の処方

- BP経口：ダイドロネル・フォサマック・ボナロン・アレンドロン酸・ベネット・アクトネル  
リセドロン酸Na・リカルボン・ボノテオ・ミノドロン酸・ボンビバ  
BP注射製剤：パミドロン酸Na・ボナロン・ゾメタ・リクラスト・ゾレドロン酸・ボンビバ静注  
抗RANKL製剤：ランマーク・プラリア  
抗スクレロスチン抗体製剤：イベニティ



## 情報提供書(Ⅰ)

## 骨粗鬆症連携 (観血処置後) [歯科→医科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称  
電話番号  
医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 ( 歳) 職業

傷病名

歯科傷病名

- 
- 歯周病
- 
- 根尖性歯周炎 (歯の根の治療)
- 
- 義歯 (入れ歯) 治療
- 
- 
- う蝕 (虫歯) 治療
- 
- 補綴治療 (被せ物)
- 
- その他 ( )

医科傷病名

- 
- 骨粗鬆症疑い
- 
- 骨粗鬆症
- 
- 関節リウマチ
- 
- 自己免疫疾患 ( )
- 
- 
- がん骨転移 (癌種: )
- 
- その他 ( )

紹介目的

この度は骨吸収抑制薬の休薬・薬剤変更にご協力頂きまして誠にありがとうございました。  
20 年 月 日に観血処置を行いましたことをご報告致します。

今後は貴院にて骨密度検査の上, 必要があれば骨吸収抑制薬の処方をして頂くように患者様  
には説明しておりますので, 御高診のほどよろしくお願い申し上げます。

骨吸収抑制薬を使用される場合は, ARONJ (骨吸収抑制薬関連顎骨壊死) 予防のために口腔管  
理・口腔ケアが大切であることをご指導いただきますとともに, 薬剤変更などに際しては, 当  
院にご一報いただければ幸いです。

既往歴及び家族歴

症状・治療経過および検査結果

現在の処方

## 情報提供書(Ⅰ)

## 骨粗鬆症連携 (観血処置後返書) [医科→歯科]

紹介先医療機関等名

担当医 科 殿

令和 年 月 日

紹介元医療機関の所在地及び名称

電話番号

医師氏名

印

患者氏名

患者住所

性別 男 ・ 女

電話番号

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 ( 歳) 職業

傷病名

- 骨粗鬆症 関節リウマチ 自己免疫疾患 ( )  
がん骨転移 (癌種: ) その他 ( )

紹介目的

ご紹介頂きました患者さんですが、  
上記診断のため下記の薬剤を

- 処方する予定です。  
 年 月より投与しております。

顎骨壊死リスクあり

BP経口製剤 BP注射製剤抗RANKL製剤 抗スクレロスチン製剤

顎骨壊死リスクなし

ビタミン製剤 SERM ホルモン製剤Ca製剤 PTH製剤

BP経口：ダイドロネル・フォサマック・ボナロン・アレンドロン酸・ベネット・アクトネル  
リセドロン酸Na・リカルボン・ボノテオ・ミノドロン酸・ボンビバ

BP注射製剤：パミドロン酸Na・ボナロン・ゾメタ・リクラスト・ゾレドロン酸・ボンビバ注

抗RANKL製剤：ランマーク・プラリア

抗スクレロスチン抗体製剤：イベニティ

既往歴及び家族歴

- 脆弱性骨折(部位: ) 糖尿病 間質性肺炎 その他 ( )  
ステロイド使用 ( あり (現在: mg) 使用歴あり なし )

症状・治療経過および検査結果

検査結果 (YAM値 % 年 月 日計測)

骨吸収抑制薬投与歴 ( なし あり:薬剤名 / 年 月より開始)

現在の処方

●骨粗鬆症に関わる医科歯科連携用語集●

●整形外科領域

あ行

圧迫性骨折

椎体骨折と同意で使用される

アレンドロン酸<sup>®</sup>

経口 BP 製剤,フォサマック,ボナロンの後発品

アクトネル<sup>®</sup>

経口 BP 製剤,リセドロン酸.1 回/月,起床時内服し 30 分横にならないようにする

一次予防

若年期の骨量が増加する時期に,偏りなく栄養素を摂取し適度な運動を行うこと

イベニティ<sup>®</sup>

抗スクレロスチン抗体製剤,ロモソズマブ.1 回/月,12 ヶ月で終了

L1~5

るんばーる  
Lumbar: 腰椎のこと.L1 は第 1 腰椎.

MD 法

Micro Densitometry: 手の横にアルミニウム板を置き,一緒に X 線写真を撮影し,画像の濃淡の差をコンピューターに読み取らせて解析する診断方法  
骨粗鬆症リエゾンサービスの略.最初の骨折への対応および骨折リスク評価と新たな骨折の防止,最初の脆弱性骨折の予防を目的とした多職種連携による骨折抑制を推進活動

おーえるえす  
OLS

オステオポロシス

骨粗鬆症のこと

か行

活性型ビタミン D3

小腸からのカルシウム吸収を促進させ,骨量の減少を抑える薬

顎骨壊死

進行性に顎骨の破壊をきたす病態.骨髄炎とは別に定義されており,放射線性と骨吸収抑制薬や血管新生阻害剤に代表される薬剤性に分類される.

カルシウム薬

カルシウムが不足すると副甲状腺ホルモンの分泌亢進を介した骨吸収が増加し骨量が減少する.骨粗鬆症に適応を有するのは,L-アスパラギン酸カルシウムとリン酸水素カルシウムのみである

QUS 法

Quantitative ultrasound: 定量的超音波測定方法.超音波の伝搬速度を用いて骨を評価する方法.通常は踵の骨を用いて測定する.放射線を使用しないため,人間ドックや検診には汎用されるが,骨量は評価できない

QCT 法

Quantitative CT: 定量的 CT 測定法.CT を用い腰椎の 3 次元的な骨量を測定する.DXA 法に比べ放射線被ばくがやや多い

原発性骨粗鬆症

閉経後骨粗鬆症,男性骨粗鬆症,特発性骨粗鬆症が含まれる

骨粗鬆症

低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし,骨の脆弱性が増大し骨折の危険性が増大する疾患

骨 質

骨微細構造,骨代謝回転,微小骨折,骨組織の石灰化度が含まれる

骨強度

骨密度と骨質の 2 つの要因からなり,骨密度は約 70%,骨質は残りの 30%を説明する

骨密度

単位体積あたりの骨量のこと.単位は g/c m<sup>3</sup>.カルシウムやマグネシウムなどのミネラルが,骨にどれくらい含まれているかの指標となる

抗 RANKL 抗体

骨芽細胞の RANKL を阻害することで破骨細胞の形成を抑制する薬,デノスマブ製剤のこと

さ行

三次予防

閉経後の女性,高齢男性で骨粗鬆症と診断された場合に,骨粗鬆症の合併症で

さーむ SERM	ある骨折を防ぐため、転倒予防、薬物治療などの介入を行うこと Selective Estrogen Receptor Modulator：選択的エストロゲン受容体調整薬の略。閉経後骨粗鬆症の予防薬
持続性骨粗鬆症	脆弱化の原因や基礎疾患（副甲状腺機能亢進症、甲状腺機能亢進症、関節リウマチ、多発性骨髄腫、クッシング症候群、メトトレキサートの使用など）が明らかな骨粗鬆症
ぜいじゃくせいこっせつ 脆弱性骨折	わずかな外力で生じる骨折のこと。一般的には立った高さからの転倒を基準とし、それより弱い力で生じた骨折のことを指す
ゾメタ®	BP 注射製剤、ゾレドロン酸。悪性腫瘍に適応
ゾレドロン酸®	BP 注射製剤、ゾメタ®の後発品
た行	
大腿骨近位部骨折	足の付け根、大腿骨頭、大腿骨頸部、大腿骨転子部からなる。多くの近位部骨折は、大腿骨頸部または大腿骨転子部（転子下）で発生する。年々増加傾向で、発生数は年間 15 万人とされる
ガイドロネル®	経口 BP 製剤、エチドロン酸 .1 回/日 2 週間投与し 10~12 週休薬
椎体骨折	脊椎を構成する要素のうち椎体のみが骨折する病態、圧迫性骨折とも呼ばれる
テリボン®	PTH:副甲状腺ホルモン製剤、皮下注射 1 回/週。24 ヶ月で終了
てきさ DXA	Dual-energy X-ray Absorptiometry：2 種類のエックス線を用いて骨量を測定する方法で、現在最も正確に骨量を測定することが出来る方法。腰椎と大腿骨近位部の両者を測定することが望ましい
デノスマブ	抗 RANKL 製剤、ランマーク®, プラリア®
な行	
二次予防	中年期には骨量の増加は期待出来ないので、骨粗鬆症およびその予備軍を発見するための検診を行い、栄養指導、運動指導、治療を検討する
パミドロン酸®	BP 注射製剤、悪性腫瘍、骨形成不全症に適応
は行	
BMD	Bone Mass Density：骨密度の略
BMA	Bone Modifying Agent：骨修飾薬の略。BP 製剤、抗 RANKL 製剤、抗血管新生阻害薬などの総称
ビスホスフォネート	破骨細胞に作用し、骨を壊す過程を抑えて骨量の低下を抑え、骨を強くし骨粗鬆症による骨折などの危険性を低下させる薬。BP 製剤、Bis 剤は略語
BP/Bis	
PTH 製剤	副甲状腺ホルモン製剤、骨芽細胞の機能を活性化し骨形成を誘導する。テリボン®, フォルテオ®
ふらっくす FRAX	Fracture Risk Assessment tool：骨折リスク評価ツール
フォサマック®	経口 BP 製剤、アレンドロン酸。1 回/週、起床時内服し 30 分横にならないようにする
フォルテオ®	PTH:副甲状腺ホルモン製剤、皮下注射 1 回/日。24 ヶ月で終了
プラリア®	抗 RANKL 製剤、デノスマブ製剤。1 回/月、皮下注射
ベネット®	経口 BP 製剤、リセドロン酸。1 回/週、起床時内服し 30 分横にならないようにする

ボナロン®	経口 BP 製剤,アレンドロン酸.1 回/日,1 回/週,ゼリー製剤,注射製剤がある
ボノテオ®	経口 BP 製剤,ミノドロン酸.1 回/月,起床時内服し 30 分横にならないようにする
ボンビバ錠®	経口 BP 製剤,イバンドロン酸.1 回/月,起床時内服し 60 分横にならないようにする
ボンビバ静注®	BP 注射製剤,イバンドロン酸.1 回/月
ミノドロン酸®	経口 BP 製剤,ミノドロン酸の後発品
フォサマック®	経口 BP 製剤,アレンドロン酸.1 回/週、起床時内服し 30 分横にならないようにする
や行 やむ YAM値	Young Adult Mean : 若年成人平均値.診断基準は脆弱性骨折のある例では 80%未満,脆弱性骨折のない例では 70%未満を骨粗鬆症となっている
ら	
ランマーク®	抗 RANKL 製剤,デノスマブ製剤.悪性腫瘍に適応
リセドロン酸 Na®	経口 BP 製剤,リセドロン酸の後発品
リカルボン®	経口 BP 製剤,ミノドロン酸.1 回/月,起床時内服し 30 分横にならないようにする
リクラスト®	BP 注射製剤,ゾレドロン酸.1 回/年製剤
ロコモティブシンドローム	運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態
ロモソズマブ	抗スクレロスチン抗体製剤,スクレロスチンに結合し骨形成促進と骨吸収抑制作用を持つ.イベニティ®

## ● 歯科領域

あ行

あるんじえい  
ARONJ

Anti-resorptive agents-Related Osteonecrosis of the Jaw の略称.骨吸収抑制薬関連顎骨壊死のこと

インレー : In

うしよく  
齲 蝕

虫歯の治療における詰め物.In と表記する.顎骨には影響がない.

虫歯のこと.原因菌の感染により歯質が破壊される.カリエスと呼ぶことある

か行

がっこつ  
顎 骨

顎の骨,歯槽骨と区別する場合もある。上顎骨と下顎骨では皮質骨と骨髄の割合が大きく異なる.骨膜内骨化

カリエス

デンタルカリエス.虫歯の総称

顎骨壊死

放射線性と薬剤関連顎骨壊死がある

ぎ し  
義 歯

入れ歯のこと.部分入れ歯と総入れ歯に分けられる

義歯性潰瘍

入れ歯の物理刺激による粘膜潰瘍.Dul と表記する

クラウン

被せ物の治療.歯の広い面積を被せる治療.詰め物と区別する表現

こんかんちりょう  
根管治療

根尖性歯周炎などの歯髄におよぶ細菌感染に対して物理的な除去を行う治療方法.一般的に数週間の治療を要する.

こんせんせいししゅうえん べ る  
根尖性歯周炎 : Per

虫歯が根にまで波及し,顎骨内に感染巣を生じる病態.Per と表記.根管治療または抜歯の治療が適応となる

さ行

残根

歯冠

歯周病：P

歯の根だけが残った状態.入れ歯の安定や感覚保存のために残す場合もある  
歯の上部のこと.被せ物の上部構造を指す場合もある

歯周治療

歯肉炎（歯肉に局限した炎症）と歯周炎（歯肉、歯根膜、歯槽骨におよぶ）  
を含めた総称.P と表記する

歯石はプラークが石灰化したもので,物理的な除去（除石・スケーリング）  
から始まり歯周治療は歯周外科,歯槽骨再生など多岐に渡る.清掃状態が良ければ  
単回で治療できるが,数週治療を要する場合もある

歯槽骨

顎骨のうち,歯が植立している部位に局限した部位の名称.皮質骨からなる.

歯肉炎

歯肉に局限した炎症の総称.歯周病に含まれる.局限していれば可逆性の病態  
であることがほとんど

歯周炎

歯周組織（歯肉、歯根膜、歯槽骨）におよぶ炎症の総称.組織破壊の多くは  
不可逆性

た行

デンタル撮影

数歯の詳細な状態確認のための X 線撮影方法.小さなフィルムで撮影するの  
で顎骨の評価は困難

デンチャー

DRONJ

入れ歯のこと.部分入れ歯と総入れ歯に分けられる

Denosumab-Related Osteonecrosis of the jaw の総称.デノスマブ使用顎  
骨壊死症例に対する名称

は行

パーシャルデンチャー：PD

取り外し可能な部分的な入れ歯の総称.PD と表記

パントモ

オルソパントモグラフィの略.パノラマ X 線写真.歯列の全体を撮影する撮  
影方法.ルミエール症候群のスクリーニングなどにも注目されている.

フルデンチャー：FD

総入れ歯のこと.FD と表記

ブリッジ：Br

残った歯と歯に橋渡し状に被せ物をする治療.欠損した歯の部分にはダミー  
の歯を置く.Br と表記

部分入れ歯：PD

取り外し可能な部分的な入れ歯の総称.PD と表記する

BRONJ

Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaw の略称.ビスホスフ  
ォネート使用顎骨壊死症例に対する名称

補綴

ま行

MRONJ

Medication-Related Osteonecrosis of the Jaws の総称.骨吸収抑制薬だ  
けでなく,ステロイドなど骨代謝に影響を及ぼす薬剤を包含した顎骨壊死の  
名称